

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2011.9.20

27

秋 期 企 画 展

# 天明以来ノ大惨事

—明治43年水害と岩淵



水害時日暮里停車場で立ち往生する機関車(当時の絵葉書から) 当館蔵

会 期

2011年10月22日(土)~12月4日(日)

休 館 日

毎週月曜日

開館時間

午前10時~午後5時

会 場

特別展示室

観覧  
無料

# 天明以来ノ大惨事

## —明治43年水害と岩淵

明治43年(1910)8月打ち続く長雨に2つの台風の襲来が加わり関東甲信越地方に多量の雨を降らせました。利根川・荒川など主要な河川は急激に水位を増し、関東地方の低地帯を広範囲にわたり浸水させました。東京では武蔵野台地の東側に広がる東京低地は松戸のある下総台地まで総て水面と化したのです。天候は直に回復しますが、8月中はなかなか減水せず、市民は不自由な生活を強いられました。当時のジャーナリズムは天明3年(1783)7月に発生した浅間山噴火に次ぐ天災として「天明以来ノ大惨事」などと形容するほどでした。この水害を契機として内務省は岩淵に水門を、旧荒川の東側に東京湾まで続く放水路を建設することを決めました。本展では、水害の様子が分かる様々な記録類や関係資料など、画像資料も含めて200点ほどを展示します。

災害年ともいえる本年秋、かつて東京が広く蒙った水害を今一度ふりかえる機会にしていなければ幸いです。お客様のご観覧をお待ちしています。



竣工後、増水時に水量を調節する岩淵水門(当時の絵葉書から) 当館蔵

### 【関連事業】

#### 1. 船から現在の荒川流路を見る会

荒川下流河川事務所の巡視船に乗って川沿いの土木遺構を観察しつつ東京湾河口近くまで下ります。

日時：11月4日(金)午後0時30分～4時30分

会場：荒川※集合場所は当館、解散場所は岩淵

定員：30名(抽選)

講師：当館学芸員ほかゲストを予定

費用：50円(保険料)※交通費は各自負担

申込：往復はがき10月24日(月)必着

#### 2. 岩淵水門の記録映画を見る会

大正期に記録された岩淵水門・放水路工事の映像をもとに当時の時代状況を振り返ります。

日時：12月4日(日)午後2時～4時

会場：当館講堂

定員：80名(抽選)

講師：当館学芸員ほかゲストを予定

費用：無料

申込：往復はがき11月24日(木)必着(インターネットも可)

※インターネットでの申込詳細については当館までお問い合わせください。

#### <問い合わせ>

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館

Tel03-3916-1133 Fax03-3916-5900 月曜休館

## Voice

### 東日本大震災と文化財—守るための取り組み—

3月11日に発生した東日本大震災は、各地に多くの被害をもたらしました。東京でも震度5強という強い揺れを記録し、多くの帰宅困難者が出たことは記憶に新しいかと思えます。この地震で、都内の文化財にも多数の被害が出ました。北区飛鳥山博物館では、大きな被害はありませんでしたが、北区内でもお寺の石灯籠などが倒れ、文化財庭園や指定文化財建造物の塀や壁にひびが入るなどの被害が生じました。地震で傷ついた文化財は今後必要な修理をおこなっていきます。この時に肝要なのは、修理で文化財の価値を損ねない様にすることです。たとえば、北区指定有形文化財の「旧松澤家住宅」の大きくヒビの入った壁(写真)の修理では、現代の修復材料や技法は使わず、もとの土壁と同じ材料・同じ技法で修理を行います。今後都内では、被災した文化財建造物や庭園などの修理がおこなわれていきますが、ひとつひとつその文化財に適した方法が検討されて実行に移されることになります。

一方、大きな被害を被った東北地方では、地震や津波の被害で

泥やがれきにまみれた文化財や公文書も多く、修理以前にこれらが滅失しない様、全国の文化財を取り扱う団体が協力体制を組織し始めています。長い時間を経て受け継がれ、あるいは多くの幸運な偶然が重なり残ってきた文化財は、一度失われると、取り戻すことはできません。将来復興がなった時に、地域の歴史や文化を伝える文化財がほとんど失われてしまわないように、懸命な作業が続けられています。

震災復興が進まない現状で、文化財保護活動を行うことに様々な意見もあります。しかし、人々の培ってきた文化や歴史をつなぐ絆としての「文化財」を守る取り組みは必ず将来につながることと確信します。(山口)



# 考古学研究の舞台となった 西ヶ原と田端

牛山 英昭(当館学芸員)



東京都内において、北区は縄文時代や弥生時代といった古い時代の遺跡が今も地表下に多く眠る、いわば「遺跡の宝庫」である。未だ都市化が及ばなかった明治時代の当地は、考古学調査の絶好の対象であったはずであり、産声をあげたばかりの日本考古学をささえた当時の学者たちもこれを見逃すことはなかった。

日本における近代考古学は、明治10年(1877)のE.S. モースによる大森貝塚(品川区)の調査によって幕を開けるが、翌年頃には、W.S. チャプリンと石川千代松によって、すでに西ヶ原貝塚も発見されている。

西ヶ原貝塚の本格的な調査に最初に取り組んだのは、坪井正五郎である。坪井は、帝国大学理科大学(現東京大学理学部)教授に就任した明治25年(1892)、西ヶ原貝塚の調査を実施した。わずか3日間の調査ではあったが、その報告は「西ヶ原貝塚探求報告」として、計7回にわたって『東京人類学会雑誌』に掲載された。その調査地点は「生蓮寺(昌林寺)のすぐ後」と記されており、現在の飛鳥中学校の南側の辺りであったとみられる。

その西ヶ原貝塚に程近い本郷通りに面したところに、明治26年(1893)に西ヶ原農事試験場が開設された。ここは現在、北区防災センターや滝野川体育館などがある一角にあたり、御殿前遺跡に該当する。その試験場構内から、明治26年頃に3点の土器が出土していることを、のちに大野雲外が「埴瓮土器に就て」のなかで記述している。実はこの3点の土器は、「弥生式土器」\*の名称誕生に大きく関わっていた。「弥生式土器第1号」として知られる壺は、明治17年(1884)に向ヶ丘弥生町(現文京区弥生町)において有坂鋳蔵らによって発見されたものであるが、その時点ではまだ「弥生式土器」とは呼ばれていなかった。試験場構内から出土した土器がこれに類似することから、名称を付けるにあたって、最初の発見地の町名を採って「弥生式土器」と呼ばれるようになったのである。

その「弥生式土器」を最初に活字に表したのは、<sup>まいだそう</sup>蒔田鎗次郎である。蒔田は、明治29年(1896)に巣鴨町上駒込(現豊島区駒込)の邸内で土器群を発見したのを機に、弥生式土器とその時代の研究に取り組んでいった。研究の主な舞台となったのは、「田端村道灌山」であった。「道灌山」といえば、西日暮里の高台を指すものと思ってしまうところだが、地続きの田端の高台も当時は「道灌山」と呼ばれていたらしい。蒔田は、現在の田端駅北口付近における土取り工事や、豊島線(現山手線)敷設工事において台地が大きく削り取られた断面を観察し、土器を採集するとともに、住居跡とみられる竪穴などがあることを確認し、それらの成果を基に次々と論文を書き著したのである。蒔田の研究の舞台「田端村道灌山」は、現在の田端西台通遺跡にあたる。

西ヶ原や田端を舞台に繰り広げられた、明治時代の考古学者たちによる調査、研究の成果は、現在の日本考古学の礎となった。そして今も、坪井や蒔田らが目にした遺跡はそこにあり、発掘調査が行われるたびに、私たちにその姿を見せてくれるのである。



蒔田鎗次郎による田端村道灌山発見の弥生式土器  
(『東京人類学会雑誌』第192号)

※現在では「式」を省き「弥生土器」とするのが一般的である。

# クローズアップ loseup

# 桐ヶ丘・西が丘

“クローズアップ”は平成23年度博物館実習生が中心となって作成しました。

桐ヶ丘に西が丘。共通するものは？それは丘の字だけではありません。共にかつて軍用地があった場所です。戦後その跡地には、桐ヶ丘には巨大な団地が、西が丘には団地や競技場、小学校が作られました。桐ヶ丘を歩くと最初期の団地としての歴史と風格が、西が丘では住宅街の中に残された歴史の生き証人のような大木や江戸の用水跡に出会うことができます。軍用地のかすかな記憶が残る町。今回はこの二つの“丘”をクローズアップ！

## “あばたもえくぼ” 穴ボコだらけの大谷石

桐ヶ丘団地を歩いていると、ミョーに気になる石の壁。ボコボコ穴が開いていて、まるで虫たちに食べられちゃったみたい！実はこれ「大谷石」という石で造られた石壁なんです。栃木県で切り出されるこの石は、加工しやすく火に強いので、様々な建物の建材として使われています。「穴ボコだらけで大丈夫？」なんて心配されている方、ご安心ください。その見た目からムシバミイシなんて異名もあるこの石ですが、論より証拠、約50年も立派にこの桐ヶ丘団地を支えてくれました！窪みから草が生えていたり、穴の形で表情が変化したり、愛嬌があっていいと思いませんか？今やコンクリートに取って代わられるようになった大谷石ですが、桐ヶ丘団地だけでなく、いろんな場所で目にすることが出来ます。虫は食べないけど味はある。大谷石を探しに町歩きヘレッツ・ゴー!!



歴史を支えた大谷石

## 災イニマケズ～大松寺のヒマラヤスギ～

大松寺には高さ18mの立派なヒマラヤスギがあります。もともと浅草松清町(現台東区西浅草)にあった大松寺はあの関東大震災で焼失。2年後に現在地に移転してきました。それと同時に植えられたのがこのヒマラヤスギなのです。戦時中の空襲によって大松寺周辺も爆弾投下の甚大な被害に遭いま



高くそびえるヒマラヤスギ

したが、ヒマラヤスギはその戦火を逃れ、戦後60年以上になる現在も、堂々とした姿を見せています。まるで、大津波に負けず東北復興のシンボルとなった岩手県陸前高田市の「ど根性松」のようですね。そういえば、大松寺のヒマラヤスギも関東大震災をきっかけに、死から生への「復活」の意を込めて植えられたんですよ。

## 江戸のマザーテレサここに眠る

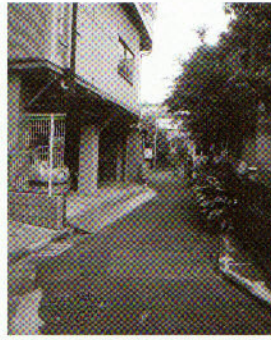
桐ヶ丘団地の南の外れ、道の向こう側にある善徳寺に、その名も“お竹如来”という墓塔があります。お竹は、江戸の頃、日本橋大伝馬町の豪商佐久間家にいた奉公人です。ではなぜ、お竹の墓が如来さまの形をしているのかというと、こんな由来があるのです。お竹はとても慈悲深く、与えられた食事を貧しい人に分け与え、また、流し受けに溜まった飯粒さえも無駄にしない儉約家でした。そんなお竹を出羽の行者が「大日如来の化身を拝ませてください」と訪ねると、お竹から後光がさしたというのです。こんな話が江戸中に広がり、お竹が成仏した後も永く語り継がれてきました。善徳寺は2度の移転の後、現在地へ落ち着いた着きました。今ではお竹の命日である5月19日にちなんで、19日に一番近い日曜日に縁日が開かれます。地元の人達のお竹を思う気持ちがわかりますね。



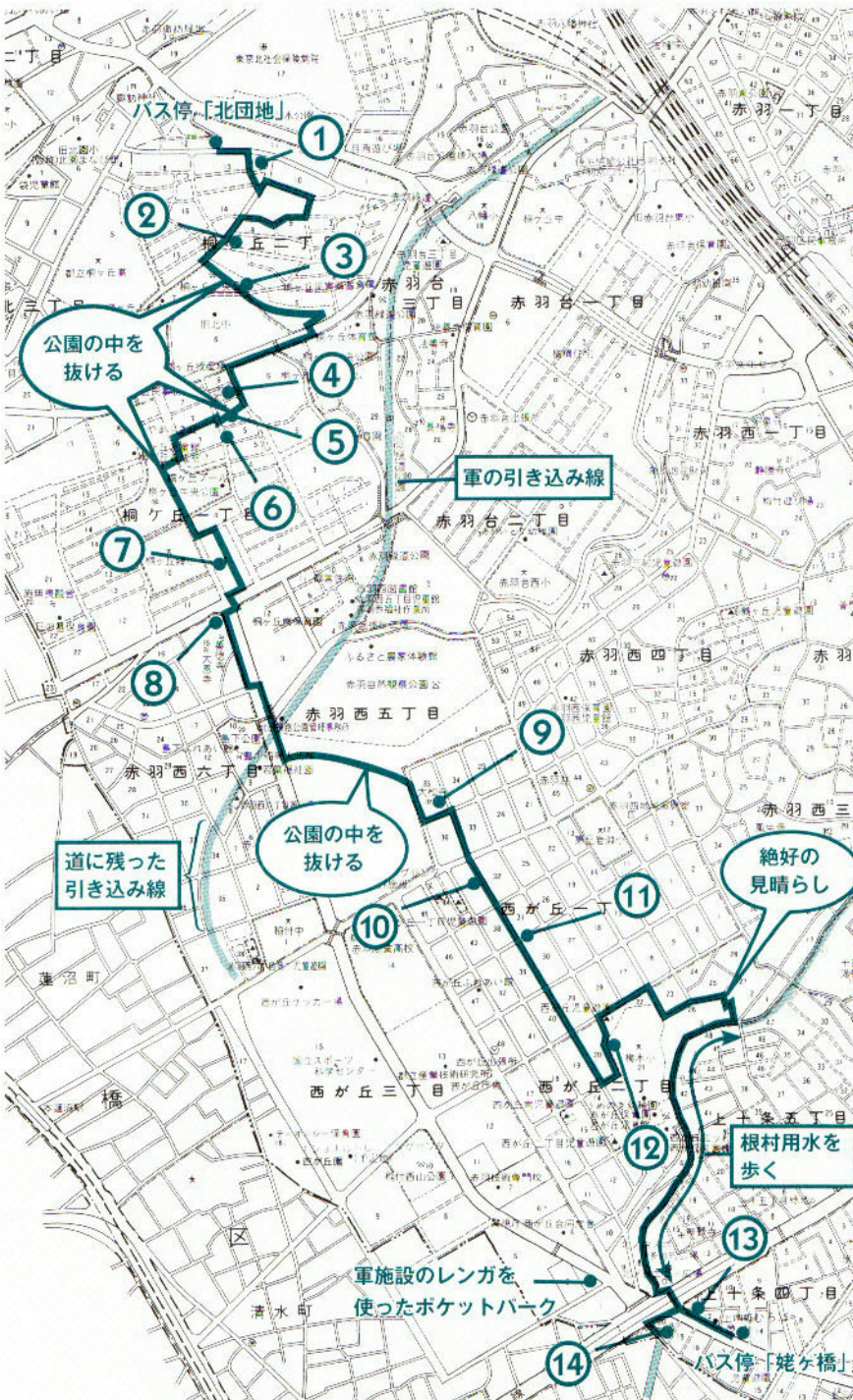
静かにたたずむお竹如来

## 農地の面影を歩く

くねくねと曲がった細い道。その左右の家々は急な斜面に張り付くように建っています。ちょっぴり不思議な場所ですが、実はここ、昔は農業用水だったんです。根村用水、またの名を北耕地川といい、江戸時代に掘られました。幅はたったの2m。しかし、下流の七つの村の水田を潤した大切な用水でした。だからこそ、その水をめぐる争いが何度もあったようです。明治5年(1872)には、上流の村の農民が竹槍を持って寺にたてこもり、下流の村の農民と15日にわたってらみ合いが続くという事件が発生。東京府が間に入ってようやく治まりました。身近に田んぼや畑が無い中で暮らす私たちには、なんだか想像もつきませんね。戦時中は軍用地、そして現在は住宅地と、様々に姿を変えた西が丘。役目を終えた用水の跡だけが、農村であった昔を伝えています。



今は昔、曲がりくねった川の跡



## 桐ヶ丘・西が丘 散策コース案内

(所要時間・約2時間)

- ① 団地のシンボル給水塔
- ② 団地の風景
- ③ とても奇妙な木を発見
- ④ モザイク模様がオシャレ
- ⑤ 昔は子ども達の歓声が...
- ⑥ とてもレトロな街灯
- ⑦ 昭和!!
- ⑧ 幡はためくお竹如来
- ⑨ ちょっとかわいい大松寺の紋
- ⑩ 昔は福付西町だったんだ...
- ⑪ そこかしこに桜が
- ⑫ 軍用地だったことを今に伝える境界標石
- ⑬ 姥ヶ橋延命地藏
- ⑭ 用水にかかっていた橋

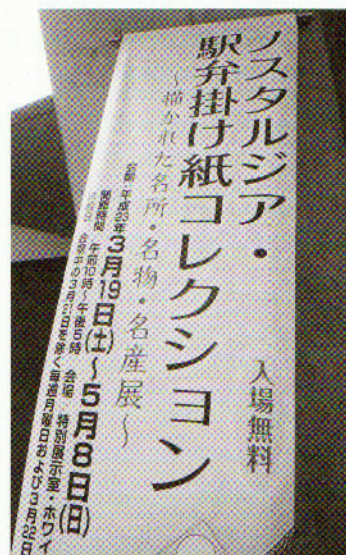
# 「ノスタルジア 駅弁掛け紙コレクション～描かれた名所・名物・名産展～」

当館では毎年春秋に学芸員の日常の研究成果の発表の場のひとつとして企画展を開催している。本年は3月19日(土)から5月8日(日)を会期に、当館所蔵の戦前から昭和時代の駅弁掛け紙を素材に地域それぞれの風土性に彩られた文化的資産・名所を紹介する春期企画展を開催した。おかげさまで個人コレクター・駅弁関連企業のご協力を得て500点以上の資料を、特別展示室・ホワイエ・講堂を会場に一堂に列品する展示となった。しかし展示準備も終盤を迎えた3月11日、千年に一度という激甚な被害をもたらした東日本大震災が発生、当館でも常設展示室で考古資料の転倒・破損等の被害が生じた。企画展開催も危ぶまれたが幸いにも施設の被害もなく、また震災直後の不安な状況のなかで催事自粛や外出手控えによる消費マインドの低迷が見られたが、むしろこのような時こそ東北・関東の被災地を含め

# Event Report

た駅弁掛け紙資料を展示することで、少しでも被災地の方々にお力添えができればという思いから、安全面を十分に留意した上での企画展開催の意志を固めたのであった。館内スタッフの激励に元気づけられ日々身の締まる思いで従事することができた。開催日を迎え最初のお客さまをお迎えした瞬間は忘れることはできない。この日を待ち望んでいたというお子様づれのご来場であった。会期を通じて例年以上の16,267人のご来場者があったが、何よりも企画展アンケートに「被災地がんばれ」のメッセージが多数あったことなど終生忘れられない展示となった。(石倉)

企画展バナー



## 資料紹介 乙女の決意…滝野川女子青年団 飛鳥山分団結成式 式辞

今回ご紹介する資料は昭和19年(1944)3月5日に举行された滝野川女子青年団・飛鳥山分団結成式の式辞原稿です。原稿は冒頭部分が欠け、二つにちぎれていますが、つなげると2m以上となる長文です。文章には読み間違えないようにと、ところどころ鉛筆でフリガナもふられています。

女子青年団とは大正期に発展した青年女子の修養を目的とした「処女会」を前身に、昭和2年(1927)文部省が大日本連合女子青年団として再編成した団体です。北区域では、昭和3年(1928)に岩淵町・神下女子青年団と王子町・王子女子青年団が設立されています。滝野川町では全町を範囲とする青年男子の滝野川青年団が創設されたのが昭和4年(1929)(同8年に滝野川区青年団に移行)ですので、女子青年団の創設はそれ以降と考えられます。

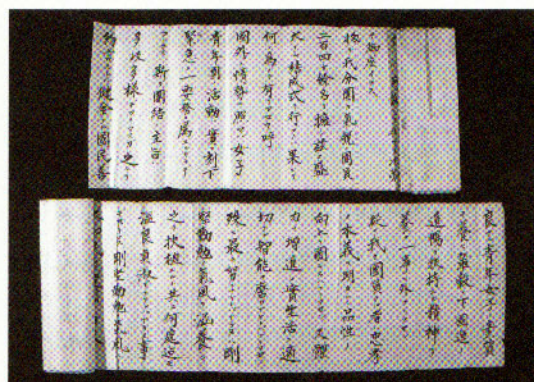
資料に目を戻せば、結成当時の分団の団員数は240余名。本文には「品性向上」「体力増強」「智能を磨く」など青年団の目標が列挙され、最も努めるべきは「剛堅勤勉ノ氣風ヲ涵養シ之ヲ扶植スル」ことであり、また「何所迄モ温良貞淑」でなけ

ればいけないと強調されています。

この式辞を読んだのは飛鳥山分団長を務めた当時19才の女性です。空襲を避けて疎開するまで、分団長として飛鳥山のグラウンドでの竹槍訓練や、「親切部隊」と称する1日1回の親切運動などを行っていたそうです。

決意に満ちた式辞からは、激動の時代に青春を過ごした若き女性たちの哀しくも健気な姿が浮かび上がってきます。

(久保埜)



式辞原稿



## あの日あの時

### 名主の滝で涼をとる

—近代の避暑事情—

今夏は、節電が求められる中での猛暑続きで、いつも以上に暑さが身体にこたえたという方も多かったのではないのでしょうか。区内各所の噴水は、連日、水遊びをする子どもたちの姿で賑わいました。

この写真は梶原利夫氏よりいただいた絵葉書の1枚で、大正時代中期～昭和時代初期に名主の滝「男滝」(現、北区立名主の滝公園内)にて禪ふんどしや股引ももひき1枚という格好で、滝浴みをする涼やかな人々の姿を写したものです。滝浴みとは、江戸時代、夏の涼をとる遊びとして大流行したものです。武蔵野台地の縁辺部に位置する王子周辺には、当時多くの滝があり、人々はこぞってこの地を訪れ、滝の水を浴びたり、眺めたりして避暑をしたといいます。この写真が撮影された頃には、それらの滝の多くが見られなくなりましたが、高所より流れ落ちる男滝を浴びる人々の情景は、服装こそ違えども、江戸時代の滝浴みそのものを映しているといっても過言ではないでしょう。

しかし、この写真でひとつ気になるのは、一様に人々の表情が険しいということです。男滝は都内有数の落差(8m)を誇る滝で、人々の身体に跳ね返る水しぶきからは、その水圧の強さが伺えるというもの。いくら夏とはいえ、これだけの水圧の中での滝浴みは、遊びの域を超えるほどの厳しさであったということなのではないでしょうか。

江戸時代の残り香が漂うこの写真は、避暑のために、水遊びをするのが子どもだけではなかった時代の人々の姿を、現代に伝えてくれる貴重な1枚です。(安武)



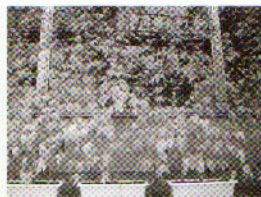
## 博物館インフォメーション

### 来館される皆様へ

東日本大震災における電力供給不足の対応として、館内の照明を一部暗くするなどの節電を行っております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

### 緑のカーテン

節電対策として、当館では照明をカットすることのほかに、西日の射す体験学習室に「緑のカーテン」(グリーンゴーヤ)を作り夏の強い日射しもカット。この部屋を会場にした夏休みの体験事業では大活躍してくれました。(小ぶりながらも美味しいゴーヤも採れました。)



### 今年も実習生が大奮闘!

8月2日から14日まで、学芸員資格の取得を目指す4名の実習生が活躍しました。資料整理に、「夏休みわくわくミュージアム」のイベント補助、野外での取材(当紙4・5ページ)など全力で取り組んでくれました。

### 新規ミュージアムグッズの紹介

当館のマスコットキャラクター・コン吉が、ハンドタオルになりました。(約25cm×25cm 国産綿100% 価格350円)肌触りが良く、吸水力も抜群。受付すぐ側のミュージアムショップにて販売中です。



### ミニ展示：中里峡上遺跡出土須恵器「鳥形平瓶」の初公開のお知らせ

当館2階ホワイエにて中里峡上遺跡なかざとほけうえいせきから出土した須恵器とりがたひら「鳥形平瓶」を初公開します。全国的に希少な当資料をこの機会に是非ご覧ください。



会期：平成23年

10月22日(土)～12月4日(日)

### 人物往来

本年3月に学芸員の川上真理が当館を退任し、後任として田中葉子が着任しました。(当紙8ページで「いろは歌留多」を担当。文化財業務への意気込みをエッセイに述べています。)皆様とは講座などで接する機会もあると存じますが、何卒よろしくお願いいたします。



秋 [ 9月~11月 ]

- 特別展覧会「第10回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9/10~10/10)
- 体験講座「友禅を楽しみ学ぶ講座」(9/17・9/18・9/24)
- 体験講座「人間国宝に学ぶ! 鍍金体験講座」(9/19)
- 「作家が語る! 作品解説」(9/25、10/9)
- ふるさと北区区民まつり「勾玉ストラップを作ろう!」(10/1、10/2)
- 講座「錦絵ギャラリー・レクチャー」(10/15、12/11)
- 講座「快読!「江戸名所花暦」を愉しむ」(10/16、10/30)
- 秋期企画展「天明以来ノ大惨事—明治43年水害と岩淵」(10/22~12/4)
- 講座「博物館バックヤードツアー」(10/29)
- 野外講座「古民家めぐり」(10/23、10/29、11/12、11/19)
- 講座「快読!江戸の村絵図を読みとく」(11/3)
- 野外講座「船から現在の荒川流路を見る会」(11/4)
- 文化財講演会「將軍の鷹狩りと北区域の村々」(11/6)
- 講座「近世ギャラリー・レクチャー」(11/12、11/26、12/17)
- 文化財講演会「十条地区の民俗調査から」(11/13)
- 野外講座 新・遺跡探訪「よこあな」を訪ね歩く」(11/19・11/20)
- 野外講座「幻の江戸東京野菜・練馬大根発祥の地を訪ねる」(11/25)
- 文化財公開事業「稲付餅搗鳴の実演と体験」(11/26)
- 講座「快読!熊野参詣受茶羅」(11/27)

冬 [ 12月~3月 ]

- イベント「岩淵水門の記録映画を見る会」(12/4)
- 講座「博物館の歴史を学ぼう!」(12/18)
- 小学校・中学校対応事業「来て、見て、さわって!昔の道具」展(1/5~3/4)
- 講座「快読!「風俗画報」で知る百年前の東京」(1/15)
- 講座「快読!「江戸名所花暦」を愉しむ」(1/29、3/11)
- 講座「遺跡でみる北区の歴史」(2/4・2/11・2/18・2/25)
- 講座「民俗行事入門「白酒祭とオビシヤ」」(2/5)
- 講座「錦絵ギャラリー・レクチャー」(2/19)
- 講座「博物館バックヤードツアー」(2/26)
- ミュージアム・コンサート「西洋音楽でたどる江戸時代」(3/3)
- 野外講座「飛鳥山3つの博物館合同企画史跡巡り」(3/4)
- 講座「東京北郊の自然史を学ぶ」(3/10)
- 春期企画展「北区の遺跡展~発掘調査最前線~」(3/17~5/6)
- 常設展示室活用展示(3/17~5/27)
- 講座「第20回新聞から読む考古学」(3/18)
- 野外講座「歩く勉強会~学園天国・北区」(3/25)

\*催し物名は仮称、( ) 内の実施日は予定です。詳細は当館発行の「催し物案内」、北区ニュース、北区HPをご覧ください。

お知らせ

- ・ふるさと北区区民まつり(10/1、10/2)・文化の日(11/3)は常設展示室の観覧が無料となります。
- ・年末年始の休館  
平成23年12月28日(水)~  
平成24年1月4日(水)

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

はじめまして。6月に博物館へ着任しました。最初の仕事は、十条地区の民俗調査報告書の編集。(十条のお富士さんをはじめとする民間信仰、年中行事、昔の生活についてなどなど、盛りだくさんの報告書です。お楽しみに!)

某日、報告書に必要な写真を撮りに十条へ。まずは商店街や町並みを撮影。うん、いい写真が撮れたぞ。鼻唄まじりに神社へ向かうと、強敵が出現しました。付近を縄張りとする猫たちです。昼寝中の猫や、こちらを確認するかのようカメラ目線の猫が、社殿といっしょに写ってしまう。猫たちからすれば、私は突然あらわれた侵入者。猫が移動してくれるのを願いつつ、カメラを構えてじっと待つ。次に向かった地蔵堂では、お堂の上にカラスがとまっている。おまけに風が出てきて、のぼりがパタパタ。のぼりの文字がきちんと読めるような写真を撮りたいのに!うむむ、野外撮影って難しい。

後日、神社の石碑を確認しに出かけました。撮影がないから今日は楽勝、と思っていたら、新たな強敵が待ち構えていました。境内で碑文を読みつつメモをとっていると、何やら不穏な音が…。ぶお〜ん、おお〜ん。気付けばヤブ蚊の大集団。境内で殺生するのも気がとがめ、蚊がとまらないよう足踏みしつつ、ノートは殴り書き。神社でノート片手に踊っている人を見かけたら、それはきっと調査員です。野外調査、恐るべし。

こんな調子で、無事この秋に報告書が発行できるのか?さあ、次なる強敵は何だ? (田中)

【開館時間】

午前10時から午後5時  
※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】

毎週月曜日  
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)  
年末年始(12月28日~1月4日)  
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・JR 京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス 草64、W40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス 飛鳥山停留所より徒歩3分

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

編集後記

このたび東日本大震災の被害に遭われた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。ご存知の通り未だ震災の爪あととは深く、心が震える想いがいたします。今号では前号発行直前に当館が体験した「震災」に関する内容や、当館の震災に対する取り組み・思いも出来るだけ皆様にお伝えしたいと考えました。御感想などをいただけると幸いです。(平澤)

北区飛鳥山博物館だより  
ぼいす27

発行日 平成23年9月20日  
編集・発行 北区飛鳥山博物館  
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3  
TEL. 03-3916-1133  
印刷 羽陽美術印刷株式会社